



# チャレンジャーの喜び……

確実に成長していったのは、共に作りあげる仲間と支えてくださる方々がいたからです。「アイデアを実行に移そう」というチャレンジャー精神がサークルの中にあったことが一番大きかったと思います。

その精神は、教員になって部活動指導の際は勿論、行事、教科指導、生徒指導など様々な場面で生かされていると感じます。学校現場で職員や生徒と共に行事を作り上げていた時、ソフトボール同好会での試行錯誤や作り上げていく喜びを思い出し、前向きになれる自分がいました。

サークル活動は、決して過去のものではなく、今もパワーの源となっている大切な宝物だと思います。

**私** が宮城教育大学に入学した時、女子ソフトボール部はありませんでした。中学校、高校とソフトボール部に所属していた私が、ソフトボール同好会結成に巻き込まれたのは当然の成り行きかもしれません。大学に入学して間もない頃、ソフトボール同好会をつくりたいという3年生の先輩に声をかけられ集まったのが2年生1人と1年生4人。数見先生にお世話になりながら、野球場やグラウンドの片隅で細々と練習を続けました。ですから、9人以上のメンバーが集まり、他の大学と試合ができたときの喜びは最高のものでした。



サークルのよさは、仲間と共に考え、失敗を恐れず挑戦できること。産声をあげたばかりのソフトボール同好会が、



所属サークル



ソフトボール同好会

宮城県教育庁教職員課  
小中学校人事班 課長補佐

## 小野 聡子

Satoko Ono

昭和57年度  
特別教科(数学)教員  
養成課程 卒業